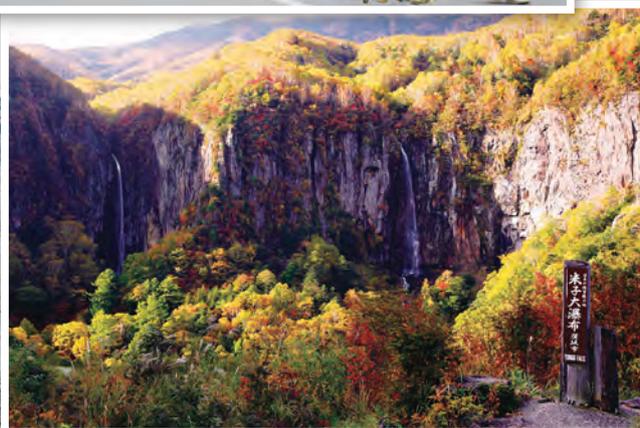
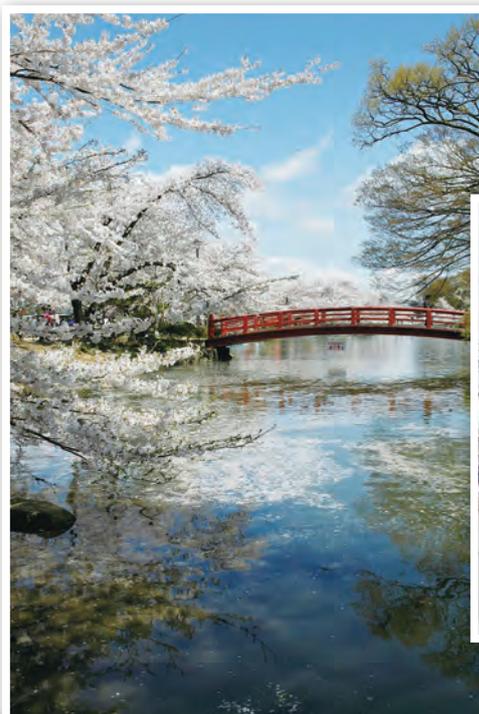


第六次須坂市総合計画 2021 ▶ 2030

須坂みらいチャレンジ2030



長野県須坂市

「豊かさ」と「しあわせ」を感じる共創のまち 須坂 を“オール須坂市”で実現



2021年度を始期とする第六次須坂市総合計画は、複雑かつ多様化する社会課題や地域課題に対し、これまで築き上げてきた須坂市の有形・無形の資産（「ほんものの誇り」、「つながりの安心」、「すこやかさの活力」）を活かし、各主体（ステークホルダー）が目標年度である2030年に向かって総力を挙げ“チャレンジ”する決意を込め、計画の愛称を「須坂みらいチャレンジ2030」として策定しました。

現在、新型コロナウイルス感染症により全世界が様々な面で困難な状況にあります。加えて、日本は、少子超高齢社会、多発する大災害などの課題を抱えています。しかし、このような状況であるからこそ、「須坂みらいチャレンジ2030」は大きな役割を果たします。

今後10年間の計画を進めるにあたり、「継承」・「進化」・「学びと行動」という3つのチャレンジ指針（まちづくりの基本指針）を設けるとともに、各施策には共創のまちづくりに向けた各主体の役割として、「市民」・「企業」・「活動団体」・「行政」それぞれの役割を明記しました。各主体がそれぞれの強みを発揮しながら切磋琢磨する姿がまさに須坂市の「共創」です。

須坂市は、課題解決・進歩に有用といわれる社会関係資本が豊かな地域です。「自利利他円満」（他者の利益になることが、同時に自らの利益になることであり、自らの利益になることが、同時に他者の利益にもなること）、「One for All, All for One」（一人はみんなのために、みんなは一つの目標のために）、堀直虎公が大切にされた「義」（利欲にとらわれず、なすべきことをすること）という言葉にあるように、須坂市の強みである社会関係資本を大いに活かし、これからも安心して希望を持って住み続けられる須坂市を「共」にチャレンジし、「創」り上げてまいりましょう。

須坂市長

三木正夫